

会報 新安土日記第6号

NPO 法人安土城再建を夢見る会

令和元年6月22日

安土・近江八幡まちづくりシンポジウム(5月26日)にて 平安楽土ルネッサンス活動が合意されました！

去る5月26日午後から開催された標記シンポジウムでは小西近江八幡市長はじめ市、県職員及び多くの市民が参加されました。江戸ウィークのディレクター橋本氏、NPO法人江戸城天守を再建する会の木川理事、安土商工会高木会長、司会の北村さん、木下教授はじめ会員の皆様の尽力の賜物と感謝しています。小西市長からも「近江八幡市から来年の安土ウィークや9月の江戸ウィークへの参加を前向きに検討する」とのお話をいただきました。京都新聞、毎日新聞、ZTVなどの取材もあり、かなりこのニュースは市民、県民に広がっています。

長年の苦労が少しずつ実を結んできています。先日の理事会でも、江戸ウィークへの参加者を送ることが決定されました。駒井理事も弁財天の衣装を着て参加いただけるようです。今回は、地元の若手店主チームが市役所チームや観光物産協会などと協力して、地元観光資源や特徴ある新商品をPRします。とくに、「平安楽土ルネッサンス」というコンセプトに合わせたイベント、商品、衣装、遊びなどを準備し、事前にTV取材も取れるような動きをします。

その前の予行演習として7月28日(日)11:00~16:00に近江八幡JC主催、近江八幡文化会館で開催されるイベントに出店し、親子向けに甲冑、忍者のレンタルやミニ歴史講演会なども準備しています。今後、益々、会員の皆様の活躍する場面が多くなってきますが、是非、これらへの支援やサポートをお願いいたします。



<江戸ウィークの概要と上野恩賜公園のいわれ>

2016年から毎年9月に上野恩賜公園で開催されているイベントで、天候が良ければ4日間で20万人が集まります。着物コンテストを中心に和装・和食文化を広めるだけでなく、江戸城天守など当時の建物も復活させようというムードを醸成する活動も含まれます。

実施概要

- 名称： おいでなんしい につぼんぶんか
Tokyo 江戸ウィーク 2019 秋まつり
～日本文化の「きれい」「おいしい」ここにあり～
- 日時： 2019年9月20日（金）～9月23日（月・祝）
10:00～19:00（予定）
- 会場： 上野恩賜公園（メイン会場：噴水前広場）
- 来場人数（見込み）： 15万人/4日間計 ※天候により変動する可能性あり
- 入場無料
- 主催： Tokyo 江戸ウィーク 2019実行委員会
- 後援（予定）： 経済産業省 / 東京都 / 観光庁 / 台東区 / 上野観光連盟

「上野恩賜公園は、日本でも特別な霊力を持った場所」です。徳川幕府の風水師天海和尚が徳川家と日本の繁栄のために江戸城と不忍池を琵琶湖に比叡山を寛永寺に見立て、池に竹生島をつくって弁財天を祀った。この場所でイベントすることに大きな意味を感じます。

しかも当方が偶然にも提案している「安土城と安土西照宮」建設は、天照大御神（皇室の先祖）をベースに西に武人信長（化身：弁財天）と東に武人家康（化身：薬師如来）で日本の強固な風水ネットワークが構築できる。奇しくも、尾張、三河で幼少の頃から仲良の二人が東西に分かれ、天下統一を実現し、死んだ後には、日本人らしく神に見立てて拜んでもらう。安土西照宮は夢の話ですが、名前も位置もピッタリで、自然な流れであり、それなりの大義もあります。

2000年以上の日本の歴史そのものが陰陽道や祈祷をベースに成り立っており、日本人の底流に流れる価値観は戦国時代も現在も同じであり、令和元年（日本文化を大切にする）に相応しいイベントになる。これらは未来永劫傳承していくビッグコンテンツにしていきたい。



<関東の会員の皆様へ>

今回、江戸城天守を再建する会の初鹿専務理事にお声かけいただき、木川氏、橋本氏を紹介いただきました。それが、このような大きな動きにつながっています。是非、この機会に近江八幡市のブース（安土城再建する会、江戸城天守を再建する会合同）にお立ち寄りくださいね！